

4. 開葯と人工受粉

蕾が膨らみ、畑が桃色になりはじめた頃に、膨らんだ桃色の蕾・花をとる摘花作業を行います。

人工授粉に必要な花粉を確保するため、摘花した蕾と花から花粉を取る作業を開葯といいます。

開葯品種(花粉・花量の多い品種)は、あかつき、白鳳(千曲)、黄金桃、白根白桃、なつっこ、フレーバートップ、ファンタジア、川中島白鳳、サマークリスタル、秀峰等です。

- ・10a 当り必要花粉量は、花蕾で1kg位(収穫カゴ一個位)です。
- ・採花中の保管は日陰などに置き涼しい状態にしておきます。
- ・ビニール袋へ入れると蒸れるのでよくないです。
- ・段ボール・ネット・紙袋・収穫かごなどを利用します。

(1) 開葯場所

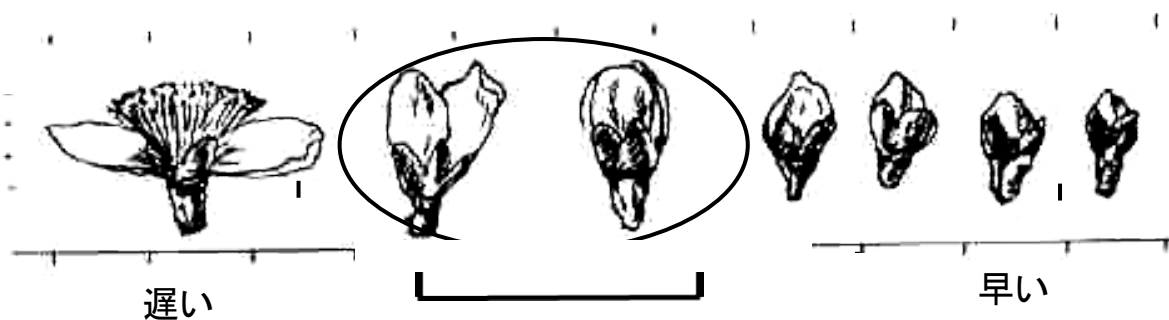
J Aの各流通センター・共選所にて実施します((詳しくは栽培アシスト情報「果樹総合情報 3月号-後半」を参照)。

(2) 開葯方法

- ・摘花で集めた蕾と花を採葯器で細断します。
- ・花びらや花粉、ゴミが混ざったものをふるいにかけて、選別し葯を取り出します。
- ・選別した葯をトレーに乗せ、開葯器に入れ1日ほど乾燥させて葯を開かせ花粉を採取します。
- ・取り出した花粉は、乾燥剤と一緒に保管します。

開花の遅い川中島白桃に受粉する場合で、期間が長くなるようなら冷蔵庫で保存してください。

花の採取適期 ※開花直前(風船)～開花直後(未開葯)を採取。



花粉の発芽率は高いが、開葯しており、花粉の採取量が減少する。

この時期のものは、発芽率が高い。このような風船状を採取する。(開花直前～開花始め期)

この時期のものは発芽率が低い。

受粉させる品種は川中島白桃が優先されますが、品質向上のために余裕があれば川中島白鳳にも人工授粉を行ったほうがよい。